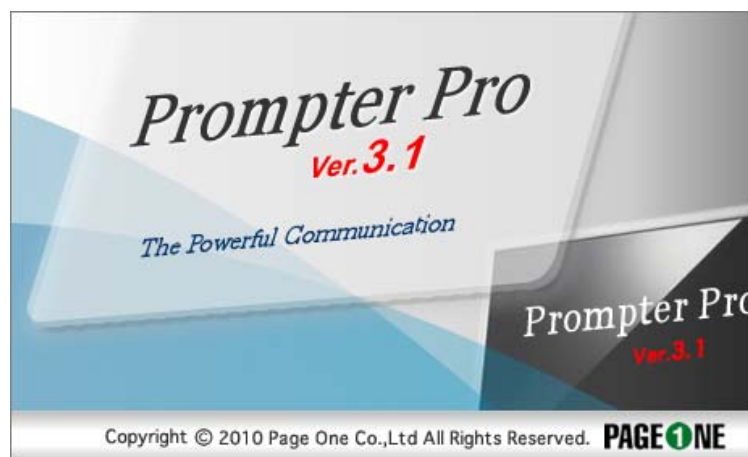


Prompter for Windows
プロンプター Pro Ver3.1
オーナーズマニュアル



■はじめに…

●プロンプターとは

プロンプターとは、激励者、セリフの付け役のこと、つまり出演者のカンニングペーパーという訳です。有名なのは人間プロンプター。舞台裏で小声で台詞を付ける黒子のこと、スタジオではアシスタントディレクターによるお馴染みのカンペによるもの等、PAGE ONEのプロンプターソフトは、一言でいうと、コンピューターにテキストデータ（原稿）を入力しコンピューターのディスプレイやモニター等に映し出して使用します。

●プロンプターシステムについて

基本的には現在お使いの Windows7/ Vista/XP/2000 マシンにインストールすれば使用可能です。スピーチ・講演等でご自分で操作なさる場合はノートパソコンのみでシステムが完成します。また、スピーチプロンプター等で第三者が操作する場合は外部ディスプレイやハーフミラー（別売）とパソコンを映し出すモニターが必要になります。

●動作環境

- ・ Windows7/ Vista/XP/2000 が正常に動作するコンピュータ。
- ・ USB ポート（セキュリティーユニットの接続に必要です）
- ・ DirectX9 以降に対応したグラフィックシステム。
- ・ 常駐プログラムは無効にしてください。

1. スクリーンセーバーを無効にする

スクリーンセーバーとは、キーやマウスを一定時間操作しないと、コンピューターを使っていないと判断して、モニター保護のため画面を消したり、アニメーションを表示するプログラムです。プロンプトを表示中に画面が勝手に変わってしまうことを防止するためにスクリーンセーバーを無効にしておくことをお勧めします。

2. IME 表示の設定を変更する

IME（かな漢字変換）の設定によっては、変換の必要が無いときでも、ウィンドウが表示されてしまい邪魔になってしまうことがあります。このような場合はIMEの設定を変更して、必要の無いときのウィンドウを消してしまいましょう。

●著作権

Copyright 1995-2010 PageOne All right reserved.

本マニュアルおよびソフトウェアは全て著作権法及び国際協定により保護されています。

PAGE ONE 社の書面による許諾なしには本マニュアルおよびソフトウェアの内容の1部または全部を複製することは禁止されています。ユーザー自身がバックアップのためコピーを作成することはこの限りではありませんが、それを第三者に渡すことは禁じられております。（36 ページの重要事項参照）

- ◆本書に記載されている会社名及び商品名は、メーカー各社の登録商標もしくは商標です。
- ◆記載された内容は、予告なく変更する場合があります。

商品に関するお問い合わせ：株式会社ページワン

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 1-52-18 ルアンビル2階
TEL03-3373-6515 FAX03-3373-6516

■ Prompter Pro 3.1 のコンセプト

●特徴

1. ワープロ感覚でデータを作成できるわかりやすい構造とシンプルな操作性。
2. 多彩なフォントやサイズで自由なレイアウトが可能。
3. 横書き、縦書きをサポート、文字に色を付けて注目色にすることが可能。
4. オートカウントダウン機能、フラッシュ機能を装備し、数多くのプロンプタースペシャル機能を搭載。
5. データのインポート、エクスポート機能を利用し、ワープロ等で作成した（原稿）の受け渡しが容易にでき効率よくデータの入力が可能。
6. お手持ちの Windows マシンにインストールするだけでプロンプターとして使用でき、特別なハードを必要としない。
7. 携帯、セッティングが簡単なため使用場所を選ばない。

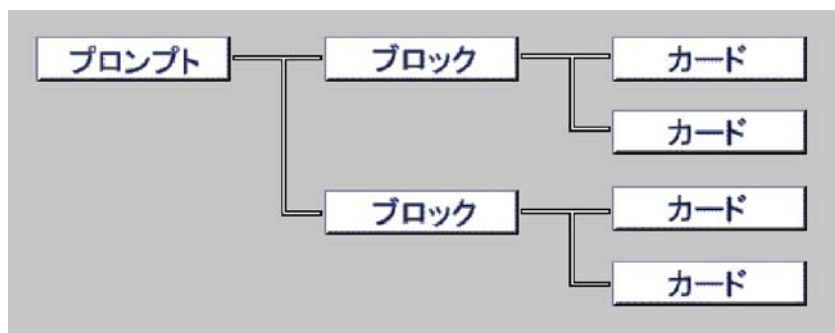
●ツリー構造によるブロックおよびカードの管理

プロンプトはすべてブロックとカードで管理されています。

ツリーをブロックの部分で閉じれば、全体構成を確認しやすくなり、必要なブロックを開けばカード単位での操作が可能になります。

また、曲の順番が変わったり出演者の紹介順が変わったりなど、番組の構成が変わってもワンタッチでブロックやカード単位で順番の入れ替えが可能です。

プロンプトの構造



●表示モードにはカード表示とスクロール表示を装備

非常に使いやすく操作しやすいカード表示モードに加え、スクロール表示機能を標準で装備しています。

スクロール表示モードはパソコンの性能に依存致しますので、ハイスペックなパソコンの使用をお勧め致します。

■ 主な機能一覧

● 編集モード

◆ ファイル

保存・読み込み	専用ファイル形式による保存・読み込み
インポート	テキストデータの取り込み（入力）
エクスポート	テキストデータの書き出し（出力）
表示モードへ	プロンプトの表示
オプション	プロンプトのフォント設定 編集モードの設定 表示モード解像度の設定
閉じる	プロンプターの終了

◆ 編集

検索	文字列指定による検索
置き換え	文字列指定の置き換え（カード単位・ブロック単位）
フォント	文字種・サイズの変更
文字の横・縦	横書き・縦書きの変更
文字マーカー	文字データに注目色を指定する

◆ カード

入れ替え	ブロック単位・カード単位での順番入れ替え
削除	ブロック単位・カード単位での削除
緊急指示カード	ディレクションカード編集（F12）

● カード / スクロール表示モード

カード送り	次のカードを表示（CTRL+ でブロック単位送り）
カード戻し	前のカードを表示（CTRL+ でブロック単位戻し）
割り込み	ファンクションキーで割り込みカードの表示（ディレクションカード）
割り込み解除	割り込み前に表示していたカードを再表示
割り込みカード編集	割り込みカードのダイレクト編集
反転表示	行単位の反転※
カウントアップ・ダウン	カウントダウン、カウントアップ
フラッシュ	行単位でのフラッシュ※
PC 画面色の反転	本体及び外部モニターを一時的に反転

※カウントダウンは 15・30・45・1'00"・1'30"・2'00"・2'30"・3'00" 前からのカウントダウンが可能。

※反転表示、フラッシュ機能はカード表示モード時のみの有効です。

■ソフトの特長的な機能

●簡単なデータの入力

ワープロのように誰でも簡単にデータの入力(原稿作成)ができ、同時に編集・レイアウトも、スピーディーに行えます。また、全体のプログラムの構成変更などには特に力を発揮します。

●ワープロで作った原稿があるとき

すでにワープロなどで作成されている原稿があるのにもう一度打ち込むのは効率が悪く入力ミスもあります。そこで、他のソフトで作成された文章を読み込む「インポート」機能があり、テキストデータであれば、簡単に取り込めます。逆に、プロンプターで作成した文章をテキストファイルにする「エクスポート」機能もありますので、データの再利用も容易に出来ます。

- ・インポート
- ・エクスポート
- ・ブロック単位のエクスポート

●定型指示を簡単に

あらかじめ想定される出演者への指示がよくあります。

「もっと話しを続けてください」とか、「中継がつながるまでのばしてください」など。これらを「ディレクションカード」(DC)に事前書き込んでおけば、ファンクションキーを押すことでそのカードを割り込んで表示することができます。

- ・ディレクションカードの編集
- ・ディレクションカードの表示

●出演者への緊急指示

カード表示モードでは誤操作による事故を防止するために一切の編集ができなくなっています。しかし、アクシデントなどで用意していない指示を表示しなければならない場合もあります。そこで、カード表示モードでもカードに入力が可能な「ダイレクトエディット」機能があります。

●出演者を注目させる

出演者が読み飛ばしてしまった部分をちゃんとフォローしたい…

出演者へ特に注意をしてもらいたい行を反転表示できます。

また、もっと注目してほしい部分をフラッシュ表示することもできます。

- ・フラッシュ反転表示機能
- ・フラッシュ機能
- ・カウントアップ・カウントダウン機能

●スピーチプロンプター対応機能

- ・PC本体及び外部モニター反転機能

● 出演者を注目させる

・

● カウントアップ・カウントダウン

よく本番前にカウントダウンが入ります。

これもオートカウントダウンで画面上に表示することができます。

- ・ オートカウントダウン・カウントアップ
- ・ カウントアップ・ダウンの中断

● 次の曲・前のシーンへ移動する

何事もなく収録が進行すれば、用意されたカードをそのまま順番に表示すればいいのですが、曲やシーンを撮り直したい時や繰り返しリハーサルを行うときがあります。

そんな時に表示中のカードをブロック単位でジャンプさせることができます。

- ・ ダイレクトジャンプ

● 簡単なブロック・カードの入れ替え

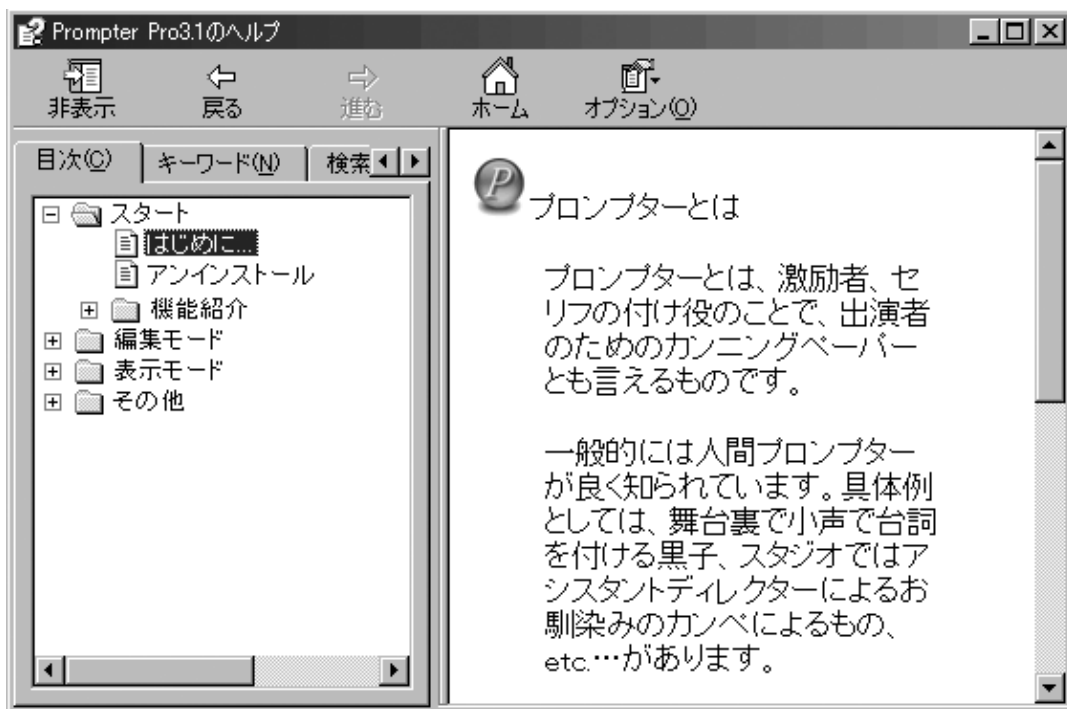
ツリーエリアでブロックをドラッグすることでブロック順序の入れ替えができます。

ツリーエリアでカードをドラッグすることでカード順序の入れ替えができます。

● オンラインヘルプ

プロンプターソフトにオンラインヘルプを装備してあります。ファイルメニューから「ヘルプ」「目次」を選び、各項目、キーワードで表示させることができます。

ヘルプ画面

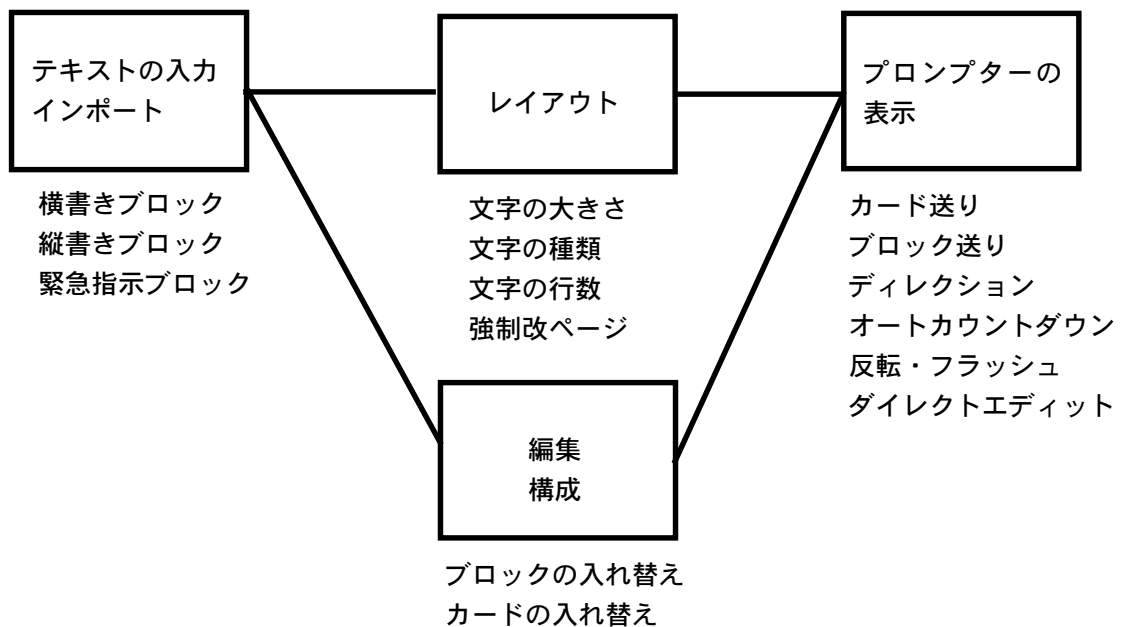


■ 操作の基本と構造

● プロンプターの基本的な作業手順

1. テキストデータの作成。入力済みのデータがある場合はインポートで、新規作成の場合は横書きブロックか縦書きブロックを作成して文字を入力します。
2. 入力した文字を見やすくするためにフォント・大きさ・揃え・行数等、ページ割りをレイアウトします。
3. 同時に、ブロックの入れ替え、カードの入れ替えなど、構成に基づいて表示の順番を決めます。
4. 表示モードに切り替え、カード表示、スクロール表示します。

● プロンプター作成の流れ



● 新規ブロック（カード）の作成

下記のボタンを押して文字の入力を始めます。



新規横書きブロック作成ボタン



新規縦書きブロック作成ボタン



クリップボードからブロックを作る
横書き・縦書きが選べます



ブロック削除ボタン

■プロンプターソフトのセットアップ

●セットアップまでの手順

アプリケーションソフトの入っている CD-ROM をお手持ちの Windows マシンに装着します。
自動的に「InstallShield ウィザード」が立ち上がりインストールの準備が始まります。

【インストーラーが立ち上がらない場合】

デスクトップからマイコンピュータをダブルクリックして「Prompter」の入っている CD-ROM をクリックして開きます。その中の「Setup.exe」というアイコンをダブルクリックします。

セットアッププログラムが立ち上がりますので、下記の手順に従いインストールして下さい。

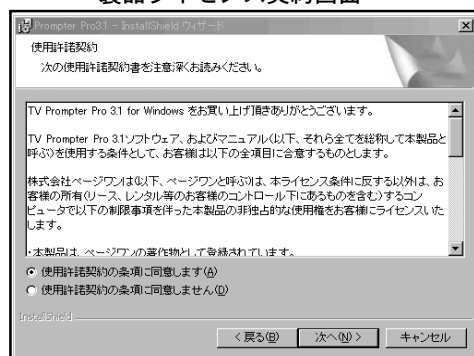
●セットアップ (Windows XP の画面)

1. 「Prompter Pro3.1-InstallShield ウィザード」へようこそという画面が出たら[次へ]のボタンをクリックします。「製品ライセンス契約」契約の全ての条項に同意出来ますか？同意出来るのであれば[はい]のボタンをクリックして下さい。（インストールするにはこの契約に同意していただく必要があります）
2. 「ユーザー情報」のウィンドウが出ますので、名前と会社名を入力し[次へ]のボタンをクリックして下さい。
3. 「インストールの選択」の画面が出ましたら[次へ]のボタンをクリックします。
4. 「プログラムフォルダーの選択」画面でフォルダーを選択し[次へ]をクリックすると、プログラムをインストールする準備ができます、[インストール]ボタンをクリックするとファイルのコピーが始まり、自動的に「セットアップの完了」画面が出ます。
5. [終了]ボタンをクリックすると「セットアップ」はコンピュータにファイルをコピーし、セットアップが完了します。デスクトップには Prompter Pro3.1 のエイリアスアイコンが表示され、アイコンをクリックすることでプロンプターソフトウェアが起動します。

セットアップ画面



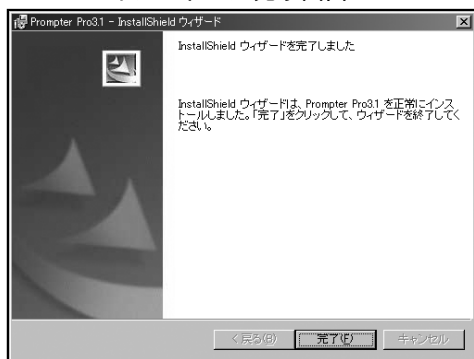
製品ライセンス契約画面



ユーザー情報画面



インストール完了画面



目次

1. はじめに	2
2. Prompter Pro3.1 のコンセプト	3
3. 主な機能一覧	4
編集モード	
カード/スクロール表示モード	
4. ソフトの特長的な機能	5.6
5. 操作の基本と構造	7
6. プロンプターのセットアップ	8
7. 目次 (このページ)	9
8. プロンプターの起動画面	10
ツリービューウインドウ	
編集ウインドウ	11
表示モード	
ファイルの保存について	12
9. 操作マニュアル	13
ウインドウズの基本操作	
各ウインドウと操作画面	
プロンプトとは・ブロックとは・カードとは	14
各ウインドウのボタン名と機能	15
10. プロンプトの作成	16
実際に文字を入力する前に	
データをインポートする場合は	17.18
プロンプターで直接文字を入力する場合は	19
11. ブロック単位での設定	20
プロンプター独自の編集ボタン	21
ブロック順序の入れ替え	22
データの完成とプロンプターの終了	
12. 表示モードでの操作	23
表示ウインドウ	
表示ウインドウでのショートカット	
カード送り・デレクションカードの表示	24
ダイレクトパネル・ダイレクトエディット	
ダイレクトジャンプ	25
反転表示・フラッシュ	
オートカウントダウン・画面色の反転	25.26
13. ハーフミラーを使用する場合	27
Windows 2000 または XP をご使用の場合	
Windows Vista または Windows7 をご使用の場合	28
14. モニター出力の設定	31
15. スクロールモードでの操作	32.33
16. Vista 使用時の注意	34
17. 解像度と外部モニターについて	35
18. サポート・ご使用上の重要事項	36

■プロンプターの起動画面

●プロンプターの起動画面

プロンプターの編集ウィンドウには一体化された二つのウィンドウがあります。

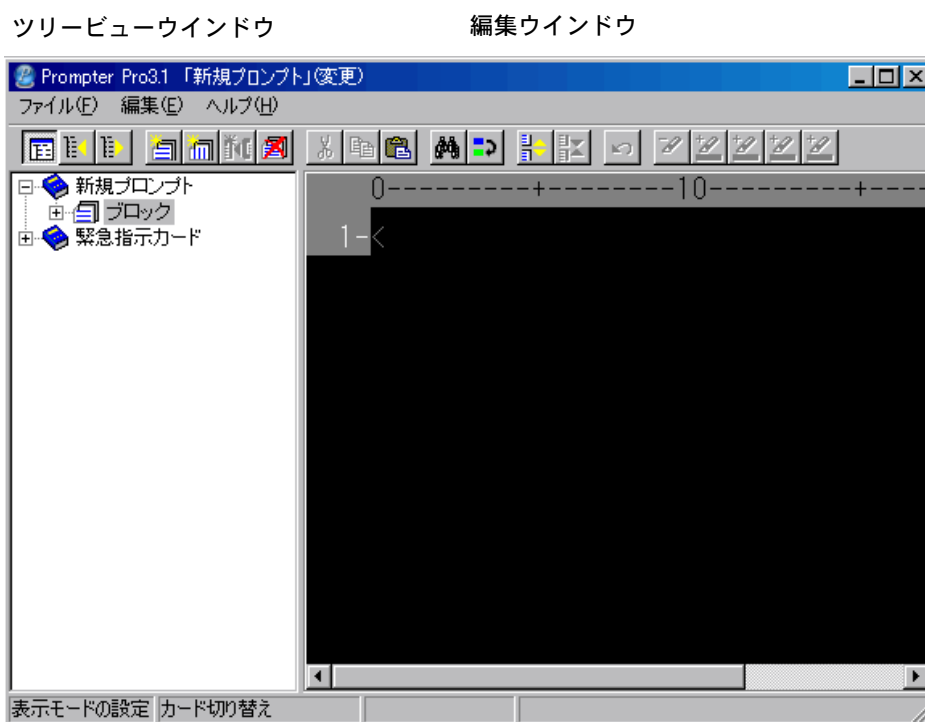
1. ツリービューウィンドウ

ツリービューウィンドウは、プロンプト全体のつながりを確認したり、カード毎の順番の入れ替え等のプロンプト全体に関わる操作をすることができます。また、編集ウィンドウで編集対象とするブロックやカードを選択するために使います。

2. 編集ウィンドウ

編集ウィンドウは、ブロックの内容を編集するためのウィンドウで、基本的なワープロ機能にプロンプター独自のスペシャル機能があります。

◆ツリービューウィンドウとカード編集ウィンドウが一体表示されワープロソフトのように文字を入力しながら同時にレイアウト、編集、構成が出来ます。



<ツリービューウィンドウ>

◆プロンプト内容全体を階層的に表示したウィンドウで、Windows 標準のエクスプローラーの表示と同様です。

◆ツリービューウィンドウ表示により素早く目的のカードを表示することが出来ます。

また、ブロック単位の入れ替え及びカード単位の入れ替えがアイコンをドラッグして移動することで簡単に行えます。ブロック名前（曲目等）文字の大きさ、縦書き・横書きが設定可能です。

<編集ウィンドウ>

ブロックやカードの内容を編集するためのウィンドウです。

MCや歌詞の内容などをここで編集します。

ツリービューウィンドウで選択されたカードやブロックが表示されます。

●ブロック（カード）には以下の3種類があります。

1. 縦ブロックは文字を縦書きに表示します。
2. 横ブロックは文字を横書きに表示します。
3. DC（ディレクションカード）は割り込みキー（ファンクションキー）により表示され、出演者に緊急の指示を与えるブロック（カード）です。

◆文字の大きさ、行数の変更が可能（ブロック単位）

◆強制改カードを入れてページレイアウトを容易にします。

◆色マーカー（注目文字）を指定文字に付けることで表示モード時、目立つようにします。

<表示モード>

カード編集ウィンドウ等で編集・レイアウトしたデータを表示するためのウィンドウです。

実際にプロンプターを使用するときのプレイウィンドウになります。

表示モードでは、簡単な操作でカードを送る事が出来、文字が表示されます。

また、プロンプター独自のスペシャル機能（Fキー）などがあります。

●表示機能

カード表示モードでは以下のキー操作ができます。

- ◆カード送り・カード戻し
- ◆ブロック送り・ブロック戻し
- ◆緊急指示表示（ファンクションキー）
- ◆オートカウントダウン・カウントアップ
- ◆ダイレクトパネル（ダイレクトジャンプ・ダイレクトエディット）
- ◆反転
- ◆フラッシュ

※スクロール表示モードでは、反転、フラッシュ機能はご利用になれません



<大切です>

表示モードから編集ウィンドウに戻る場合は **ctrl+M** を押して下さい。

もう一度押すと、表示モードに戻ります。（**ctrl+M** を押すたびに編集モード、表示モードの画面がくり返し表示されます）

●ファイルの保存について

◆データを保存するには、ファイルメニューからの保存と、エクスポートがあり、ツリーメニューからはエクスポート（書き出し）があります。

ファイルメニューの保存はプロンプト全体が保存されます。ブロックからのツリーメニューでは、ブロック単位でのエクスポートが可能です。



●ファイルメニュー

- ・新規作成
- ・開く
- ・上書き保存・名前を付けて保存
- ・インポート・エクスポート
- ・表示モードへ（プレイウインドウ）
- ・オプション
- ・閉じる

●ツリーメニュー

- ・カード名前の変更
- ・ブロックの削除
- ・ブロックのエクスポート
- ・ブロックのプロパティ

●プロンプターで扱うファイルについて

「*.PR3」プロンプターデータファイル

プロンプターの「名前を付けて保存」や「上書き保存」を実行すると作成されるファイルに付く拡張子です。作成されたプロンプトが記録されています。

「*.TXT」プレーンテキストファイル

特別なデータ構造をとっていない（普通の）テキストファイルです。「インポート」・「エクスポート」機能で読み込み・書き込みができます。なお、このファイルは一般的なワープロソフトやWindowsのメモ帳等で内容をを確認・変更することができます。



<ご注意>

制作時に使用したPC以外でデータを表示する際、レイアウトのずれ（1文字入らない等）が生じる事がございますが、多くの場合、OSのバージョン違いによるものです。

また、同じバージョンであっても他のアプリケーションにフォント制御機能が含まれる場合も同様ですので、その際は、お手数ですが再レイアウトをしてご使用下さい。

■ 操作マニュアル

● Windowsの基本的な操作

Windowsの基本的な操作については、ファーストステップガイドかスタートメニューのヘルプを参照してください。

文字列入力時の基本操作

文字列の入力・編集はWindowsの標準的な操作と同じです。

文字列入力中に利用できるショートカットは以下のとおりです。

Ctrl+Aすべてを選択

Ctrl+Zやり直し (テキスト編集において直前に行った作業のみ、やり直し)

● 各ウインドウと操作画面

プロンプト内容全体を階層的に表示したウインドウで、Windows標準のエクスプローラーの表示と同様です。ブロックをクリックするとカードレベルまで開きます。

ブロックレベル

◆左のボタンから

1. ツリー領域の表示・非表示、ツリー領域の表示を制御する
2. ツリーを閉じる
(ツリーをブロックレベルまで閉じる)
3. ツリーを開く
(ツリーをカードレベルまで開く)

◆左のボタンから

1. 新規横書きブロック作成ボタン
2. 新規縦書きブロック作成ボタン
3. クリップボードからの新規ブロック作成ボタン
4. ブロック削除ボタン

カードレベル

ブロックをクリックする事で編集対象が切り替わります。ディレクションカード (DC) を編集するにはツリーでディレクションカードを選択します。

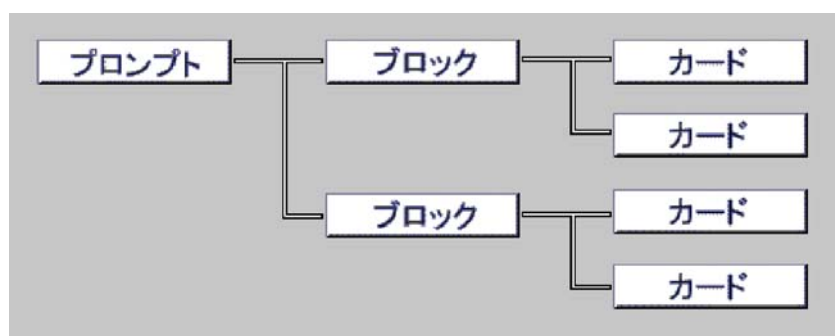
●プロンプトとは

プロンプターで扱われるカード全体を表し、その下にはブロックがあり、その下にはカードがあります。ファイルメニューから「名前を付けて保存」すると、プロンプトに名前が入ります。通常は、全体のプログラム（イベント名・番組名等）の名前を入れます。

◆プロンプトのアイコンをダブルクリックするとブロックが開きます。

また、ブロックが開いている状態でダブルクリックするとブロックが閉じます。

※「ツリーを閉じる」、「ツリーを開く」ボタンでも操作が可能です。



●ブロックとは

ブロックには、横書き用、縦書き用、ディレクション用（DC）の3種類のブロックがあります。それぞれのブロック作成は新規作成ボタンで行います。（DCブロックは起動時ツリーメニューにあります）作成したブロックには名前を付けて管理します。ブロックアイコンをドラッグすることでいつでもブロックの順番を入れ替えることができます。

◆ブロックのアイコンをクリックするとカードが開きます。

また、カードが開いている状態でクリックすると、カードが閉じます。

※「ツリーを閉じる」「ツリーを開く」ボタンでも操作が可能です。

●カードとは

新しいブロックを作成すると必ず1枚目のカードが自動的に作られます。

カードの名前は、ブロックで付けた名前になります。

このカードにワープロの様に文字を入力します指定した行数になると自動的に新しいカードが出来ます。

カードアイコンをドラッグすることでいつでもカードの入れ替えが出来ます。

◆指定したカードは編集ウィンドウで確認できます。

また、ツリービューウィンドウで選ばれたカードはたえず編集ウィンドウ、表示モードに表示されます。

●各ウインドウのボタン名と機能

ツリービューでのツールボタン



◆左から

- ・ ツリー領域の表示・非表示、ツリー領域の表示を制御します。
- ・ ブロックツリーオープンボタン
- ・ ブロックツリークローズボタン
- ・ 横書きブロック新規作成ボタン
- ・ 縦書きブロック新規作成ボタン
- ・ クリップボードからブロックを作る（縦書き・横書き）
クリップボードにコピーされている内容を使って新しいブロックを作成します。
- ・ ブロック削除ボタン

編集ウインドウでのツールボタン



◆左から

- ・ カット (*Ctrl+X*)
- ・ コピー (*Ctrl+C*)
- ・ ペースト (*Ctrl+V*)
- ・ 検索 (*Ctrl+F*)
- ・ 置き換え (*Ctrl+R*)
- ・ 強制改カード挿入ボタン (*Ctrl+P*)
- ・ 強制改カード削除ボタン (*Ctrl+L*)
- ・ 1つ前の作業に戻る (*Ctrl+Z*)

Back Space キーでの削除には無効です。

◆左から

- ・ マーカーボタン（白、黄、青、緑、赤）
初期設定の色は白になっております。

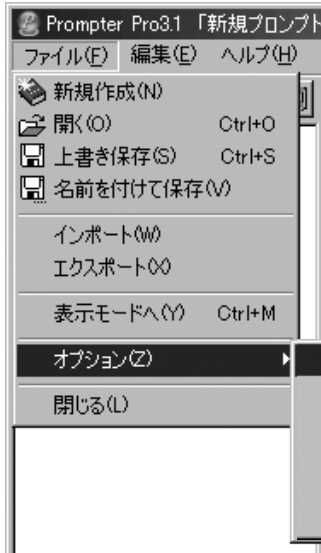
●表示ウインドウ（表示モード）での機能

◆カード表示モードでの主なキー操作（ショートカット）

- ・ → カード送り
- ・ ← カード戻し
- ・ *Ctrl+→* ブロック送り
- ・ *Ctrl+←* ブロック戻し
- ・ *F1-F10* デレクションカード表示
- ・ *F11* A-COUNT
- ・ *F12* ダイレクトエディット
- ・ *Ctrl+スペース* ダイレクトパネル表示・非表示切り替え

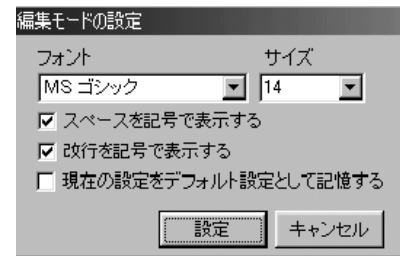
■プロンプトの作成

●実際に文字入力を始める前に

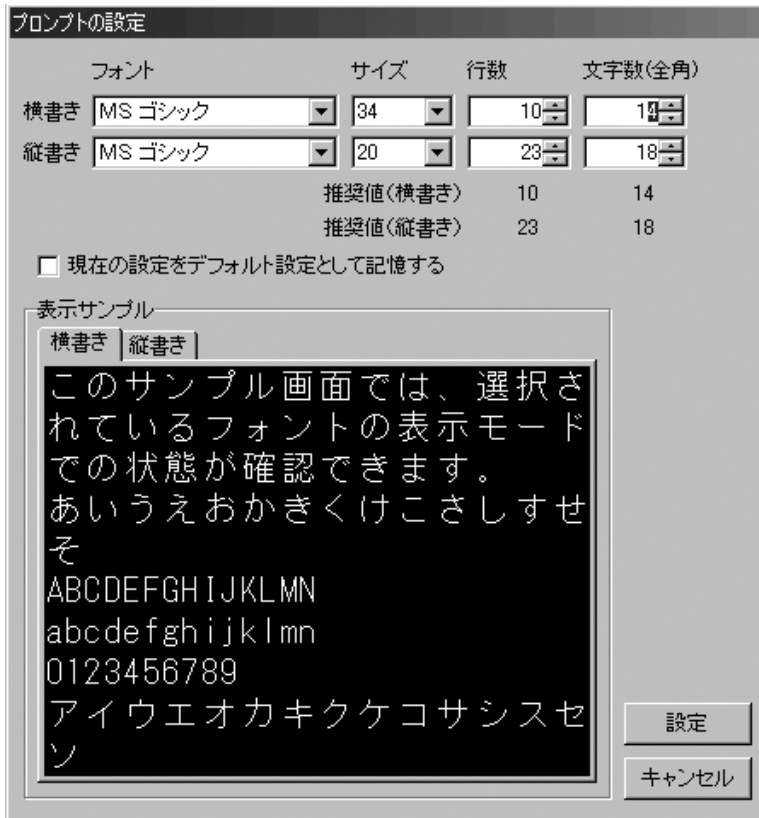


- ・ファイルメニューからオプションを選び、「プロンプトのフォント設定」で各項目に沿って、文字の大きさ、行数等の設定を決めます。（いつでも設定可能です）
- ・「編集モードの設定」では、編集ウィンドウのフォント、文字の大きさ等の設定ができます、表示モードの設定には反映されませんので入力しやすい大きさに設定します。

編集モード設定



プロンプトフォントの設定（全体の文字の設定画面）



- ・横書き・縦書き個々に設定可能。
- ・フォント設定はポップアップウィンドウから選ぶことで設定いたします。
- ・フォントサイズの設定については、推奨する行数・文字数を参考にされることをおすすめいたします。

- ・表示サンプル画面では、横書き、縦書きの表示状態を確認できます。
- ・各項目の入力が済みましたら「設定」ボタンを押します。

※ここでは、とりあえずの設定でかまいません、実際の表示画面を見て再度設定しましょう。

※ブロックごとのフォントサイズについては、ブロックのプロパティより設定して下さい。



<プロポーショナルフォントご使用時のご注意！>
 フォントにPのついているフォント、例えばMS-Pゴシック等

日本語フォント（全角幅）を使用する事を想定してプログラミングがなされておりますので、英数フォント（プロポーショナル）を指定した場合はレイアウトが若干変わります。実際の画面でレイアウトをお確かめ下さい。

●ワープロ等で入力した原稿がある場合

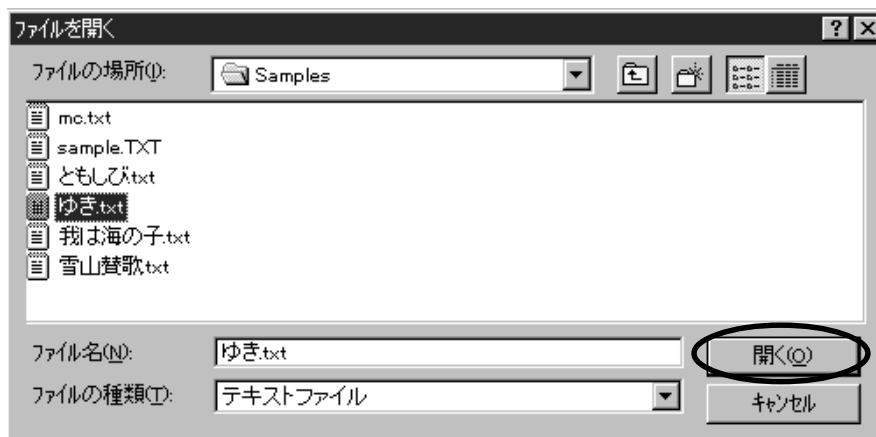
ファイルメニュー



すでにワープロなどで作成されている台本があるのにもう一度打ち込むのは効率が悪く、入力ミスもあります。そこで、他のソフトで作成された文書を読み込む「インポート」機能があります。逆に、プロンプターで作成した文書をテキストファイルにする「エクスポート」機能もあります。

1. ワープロ等で入力した文字データがある場合はファイルメニューから「インポート」を選びデータを取り込みます。
2. 「インポートファイルの指定」のウィンドウが出たらUSBメモリー等、該当するメディアから目的のファイルを探して「開く」のボタンを押します。

ファイルを開く





< 注意 ! >

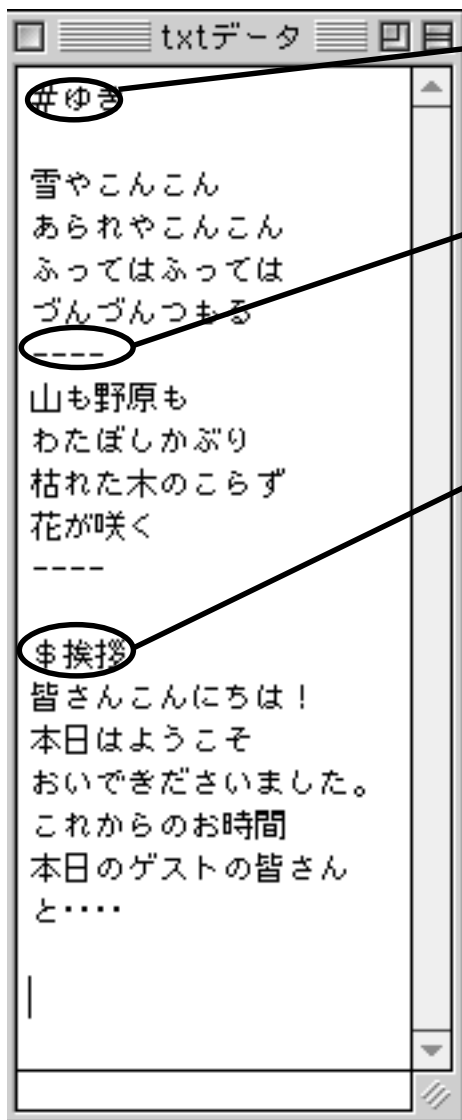
※データをインポートする場合は、決められた形式がありますので、必ず下記の事項をお守り下さい。

◆データをインポートする場合

1. データを横書きブロックに入れる場合はデータの最初の文字の先頭に必ず「#」を入れて下さい。
2. データを縦書きブロックに入れる場合はデータの最初の文字の先頭に「\$」を入れて下さい。
3. 強制的にページを分ける場合は分けたい部分の行に「----」を入れて下さい。
また、強制改ページを入れなければ指定した行数で自動的にページ分けして取り込まれます。
4. 最終行の最後尾にてEnterを押し、改行指示を行って下さい。
5. ファイル形式は、.TXTで保存したものに限りです。

◆エクスポートの場合は、特に特別な操作する必要はありません。自動的にプロンプター独自のフォーマットで保存されます。

サンプルテキスト



#と入力した場合は横書きブロックにインポートされます。

強制改カードマークを入れた場合は強制的にページが分けられます。
横線は必ず数字キーの「-」を4回入れます。
3回でも5回でも無効になります。

\$と入力した場合は縦書きブロックにインポートされます。

< 注意 ! >

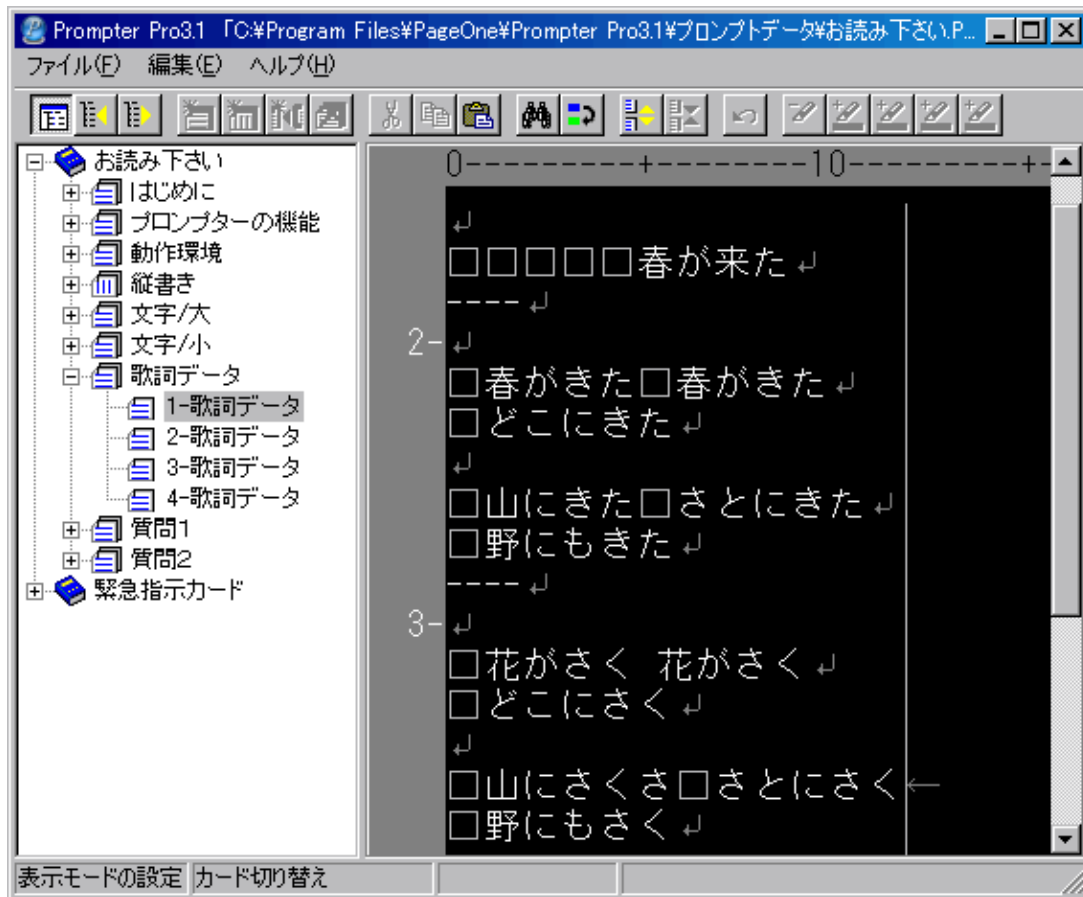
#、\$を指定しなかった場合や#、\$の前に改行、スペースを入れた場合は読み込むことが出来ませんのでご注意ください

< 注意 ! >

メモ帳などからインポートする場合は必ず文章の最後に改行コード(Enter)を入力して下さい。改行コードを入れない場合は最後の行がインポートされません。

●プロンプターの作業画面

プロンプターの文字入力ウィンドウ



●プロンプターで直接文字を入力する場合

1. ファイルメニューからオプション「プロンプトのフォント設定」で、全体の文字の各設定をします。
(文字の大きさ、行数はそれぞれのブロックでも設定可能です)
 2. 「新規プロンプト」にファイルメニューから「名前を付けて保存」でプロンプトの名前を付けて保存します。
(保存はいつでも出来ます)
 3. 新規作成ブロックボタンを押してブロック（横書きブロック・縦書きブロック）を作成します。
 4. 編集ウィンドウにカーソルを合わせ、文字を入力していきます。
文字の編集はWindowsの標準的な操作と同じです。(15ページの編集ウィンドウでのツールボタンを参照)
決められた段数を越えると自動的にカードが作成されます。
 5. ツリーウィンドウのカードが自動的にページ番号をふってカードが増えていくのが確認できます。
- ※歌詞などの区切りで次のカードに切り替えたい場合には、改カード記号を挿入します。
- ・区切りたい位置にカーソルを移動します。改カード挿入ボタンを押します。
- ※改カード削除、改カード挿入で入力された改カード記号を削除する場合。
- ・削除したい改カード記号にカーソルをあわせませす。ボタンを押します。

■ブロック単位での設定

●ブロックでのツリーメニュー

- ◆1ブロックのみの設定変更はブロックのプロパティで変更します。
ブロックのツリーメニューには以下の項目があります。

1. カード名の変更
2. ブロックの削除
3. ブロックのエクスポート
4. ブロックのプロパティ

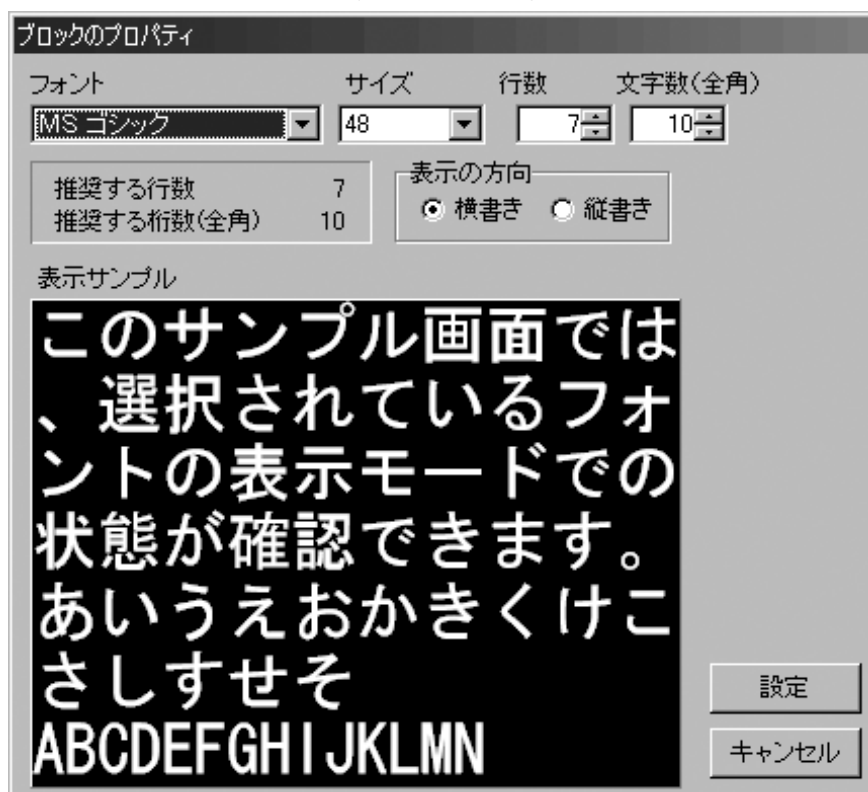


●ブロックのプロパティ

- ◆この操作は全体のブロック（プロンプトの設定）には反映されません。
選ばれたブロックのみ設定、変更が可能です。

- ・フォントの変更、サイズ、行数、文字数（全角）が変更できます。
- ・表示の方向
横書き・縦書きの指定、変更が出来ます。
(表示サンプルで確認することが出来ます。)

ブロックのプロパティ



●プロンプター独自の編集ボタン

◆改カード挿入ボタン

強制的にページを区切りたいときは「改カード挿入ボタン」を押します (Ctrl+P)
編集ウインドウには「----」のマークが入り、このマークがページの区切りになります。

◆改カード削除ボタン

強制的にページを区切った「改カード挿入ボタン」を削除するときに使用します (Ctrl+L)
この操作を実行すると指定された行数にしたがって自動的にページが区切られます。



<アドバイス！>

完成した文字データの中に文字を挿入した場合「----」マークが無ければ必然的に入力した文字分それ以降が後ろへずれます。

ページのレイアウトをくずしたくない場合はページの最後に必ず「改カード挿入ボタン」を押して「----」を入れましょう。

◆マーカーボタン

このボタンは、特に注目したい文書に色を付けて区別する事ができます。
通常は黒バックに白色で表示されますが、黄、青、緑、赤のボタンを押すことで色が付けられます。
(文字単位の色指定になります)

1. 編集ウインドウで「マークを付けておきたい」文字をマウスで反転させます。
2. 「マーカーボタン」黄、青、緑、赤のいずれかを押すと反転した文字が注目色になります。

◆マーカーを解除する

1. 編集ウインドウで「マークを付けた」文字をマウスで反転させます。
2. 「マーカーボタン」の一番左の白ボタン (初期設定) を押します。

●カード順序の入れ替え

- 1・ツリーエリアでカードをドラッグすることでカード順序の入れ替えができます。
1. 入れ替えたいカードを選択します。
 2. 選択されたカードを挿入したい位置までドラッグで移動します。
 3. 挿入したい位置まで移動したら、マウスボタンを放します。

※挿入される位置は、マウスボタンを放したときに選択されているカードの上になります。

※カードを別のブロックに移動させることはできません。

●複数のブロック作成

◆例えば、曲目ごとにブロックを作成しておけば曲名ごとの管理になり表示もわかりやすくなります。
ナレーション、MC、スピーチ等においても、タイトル、議題別にブロックを構成すれば素早く目的のカードを探し出すことが可能になります。

1. 新規作成ブロックボタンを押してブロック（横書きブロック・縦書きブロック）を作成します。
（プロンプターで文字入力を作成する場合と同じです。19 ページ参照）

●ブロック順序の入れ替え

◆ツリーエリアでブロックをドラッグすることで順序を入れ替えする事が出来ます。

1. 入れ替えたいブロックを選択します。
 2. 選択されたブロックを挿入したい位置までドラッグで移動します。
 3. 挿入したい位置まで移動したら、マウスボタンを放します。
- ※挿入される位置は、マウスボタンを放したときに選択されているブロックの上になります。

●緊急指示カードの作成（F1～F10）

表示モードのファンクションキーに割りあてられた「ダイレクト表示機能」に対しての文字入力です。
基本的には今までのブロック作成と変わりありません。
文字の大きさは全体のフォント設定に影響されませんが、その他の機能はブロック機能に準じます。
但し、カード表示は1枚のみに限定されます。ブロックの入れ替え、カードの入れ替えは出来ません。

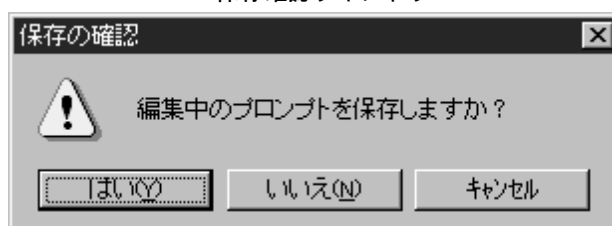
●ファンクションキー F12 への割り当て

「ダイレクト表示機能」F12はダイレクトエディット機能用のON、OFF ボタンです。

●データの保存とプロンプター終了（保存の確認）

- ◆ファイルメニューから「上書き保存」（古いファイルは新しいデータに置き換わります）
「名前を付けて保存」（新しい名前のファイルが出来、保存前のデータは残ります）
- ◆プロンプターを終了する場合はファイルメニューから「終了」を選びます。
編集中のプロンプトの確認ウィンドウが現れますので、確認後終了します。

保存確認ウィンドウ



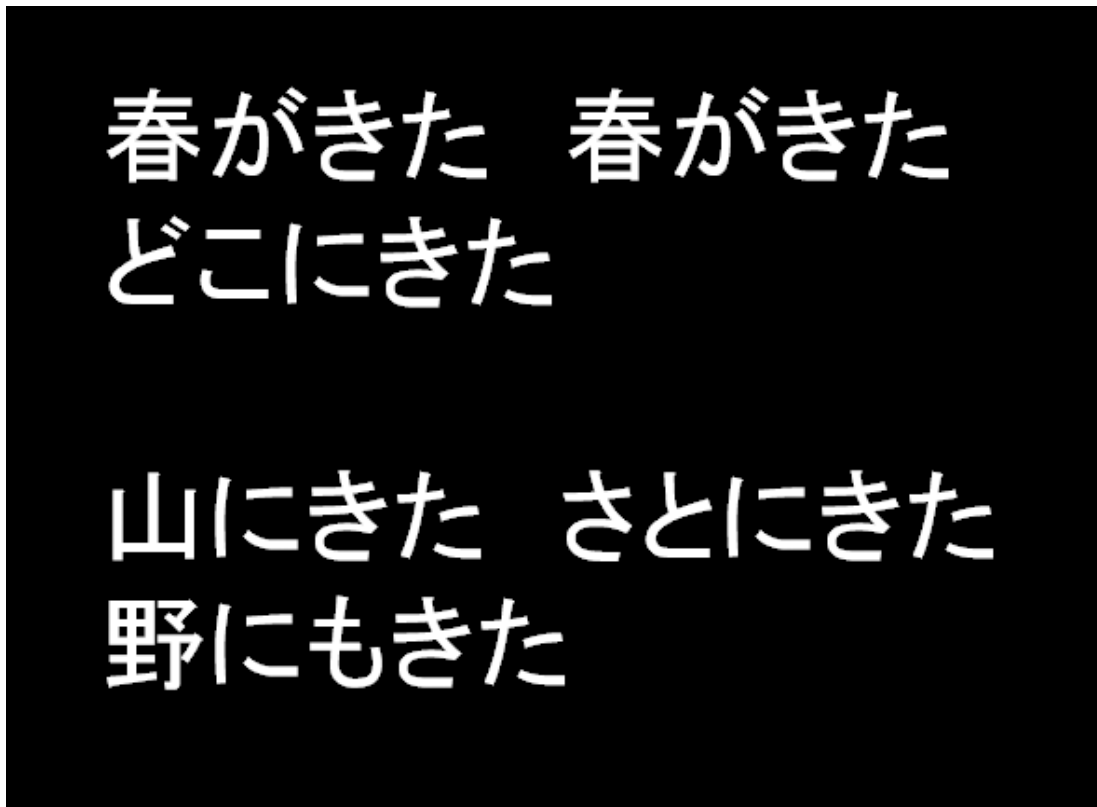
■ カード表示モードでの操作

● 表示ウィンドウ

カード編集ウィンドウで編集・レイアウトしたデータを表示するためのウィンドウです。
実際にプロンプターを使用するときのプレビューウィンドウです。

◆表示モードへ切り替えるには *ctrl+M* を押すと表示モードに切り替わります。

表示画面



◆表示モードでの主なキー操作（表示ウィンドウのショートカット）

- ・ → カード送り
- ・ ← カード戻し
- ・ *Ctrl+ →* ブロック送り
- ・ *Ctrl+ ←* ブロック戻し
- ・ *F1-F10* ディレクションカード表示
- ・ *F11* A-COUNT
- ・ *F12* D-EDIT（ダイレクトパネル表示し文字を入力する）
- ・ *Ctrl+ スペース* ダイレクトパネル表示・非表示切り替え
- ・ マウスクリック 反転指定（さらにFキーを押すとフラッシュします）
- ・ *F*キー フラッシュ(押している間フラッシュします)

※カウントダウン機能及びカウントアップ機能のショートカットキーの説明はP26をご覧ください。

●カードの送り

- ◆→キーでツリーウィンドウで並べたとおりにカードが表示されます。
- ◆←キーでカードが戻ります。
- ◆Ctrl+ →・Ctrl+ ←キーではブロック単位でカードが表示されます。(ダイレクトジャンプ)

●緊急指示カードの表示

- ◆今表示されているカードに割り込んでディレクションカードを表示させることができます。

1. ファンクションキーを押します。(F1～F 10)
2. もう一度表示されている緊急指示カードのファンクションキーを押すと元のカードに戻ります。
緊急指示カードを表示した状態でもほかの緊急指示カードのファンクションキーを押すとそのカードに切り替わります。

●ダイレクトパネル

- ◆ダイレクトジャンプ (ダイレクトにブロックを指定する) やダイレクトエディットを利用するときはダイレクトパネルを使います。普段は誤操作防止のためダイレクトパネルは、表示されていません。

1. Ctrl+ スペースを押します。
 2. もう一度、Ctrl+ スペースを押すとダイレクトパネルが消えます。
- ※必要が無いときは、ダイレクトパネルを消しておきましょう。

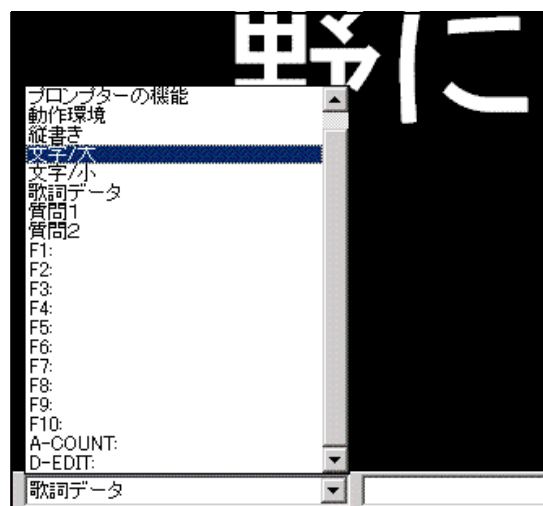
●ダイレクトエディット

- ◆カード表示モードでも「緊急指示カード F12」を編集・表示することができます。出演者への緊急指示などにご利用ください。

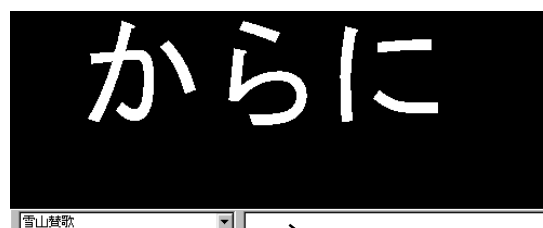
1. ダイレクトパネルが表示されていないければ、Ctrl+ スペースで表示させます。
2. 必要な文字列を入力します
3. Enterを押すと自動的にカードが表示されます。
4. 元のカードに戻す場合は、「F12」を押してください。

- ※ダイレクトエディットは「緊急指示カード F12」のみに対して有効です。

ダイレクトパネル



表示画面の下に現れるダイレクトパネル



エディットボックス



<ご注意！>

ダイレクトパネルの「エディットボックス」に入力中は、カード送りなどのキー操作ができません。入力を中断する場合は、入力中に *ESC* を押し、*Ctrl*+スペースでパネルを消して下さい。

●ダイレクトジャンプ

◆表示させたいカードをブロック単位で瞬時に呼び出せます。

- 1.ダイレクトパネルが表示されていない場合は、*Ctrl*+スペースで表示させます。
ダイレクトジャンプボックスをクリックします。
- 2.ブロック名の一覧が表示されます。
- 3.表示させたいブロック名をクリックします。

※1つ前のブロックにジャンプするには *Ctrl*+←が、ひとつ後のブロックにジャンプするには *Ctrl*+→が便利です。

※ダイレクトジャンプ後のカードは選択されたブロックの先頭カードになります。

●反転表示

◆出演者に注意をしてもらいたい行を反転表示することができます。

- 1.反転させたい行をクリックします。
- 2.反転している行をクリックすると元に戻ります。

●フラッシュ

◆出演者に注意をしてもらいたい行をフラッシュ表示することができます。

- 1.フラッシュさせたい行をクリックし、反転させます。
*F*キーが押されている間、反転している行が点滅します。
- 2.フラッシュを中止する（*F*キーを放す）と反転はすべて解除されます。

●オートカウントアップとカウントダウン

◆プロンプターの表示画面にいつでも時間を表示させ出演者に時間表示を見せることが可能です。
例えば、出演者に割り当てた時間を表示し時間進行の管理に、また、生番組の時間管理にご利用下さい。
カウントアップは0秒～59分59秒まで表示することが出来ます。

●オートカウントアップ機能

◆カウントアップは0秒～59：59秒表示画面に表示することが出来ます。

開始 →CTRL+0

停止 →CTRL+5

●オートカウントダウン機能

◆オートカウントダウンには3分、2分30秒、2分、1分30秒、1分、45秒、30秒、15秒前からのカウントダウンがあります。

1分前からのカウントダウンはCtrl+1を押します。

1分30秒前からのカウントダウンはCtrl+Qを押します。

2分前からのカウントダウンはCtrl+2を押します。

2分30秒前からのカウントダウンはCtrl+Wを押します。

3分前からのカウントダウンはCtrl+3を押します。

15秒前からのカウントダウンはCtrl+Shift+1を押します。

30秒前からのカウントダウンはCtrl+Shift+2を押します。

45秒前からのカウントダウンはCtrl+Shift+3を押します。

カウントダウン実行中はディレクションカード表示(ファンクションキー)以外の操作はできません。

※キー操作の補足

Ctrl+1とあった場合はCtrlキーを押しながら1キーを押します。

Ctrl+Shift+1とあった場合はCtrlキーとShiftキーを押しながら1キーを押します。

オートカウントダウンの中断方法

カウントダウンは自動的に終了しますが、中断することもできます。

カウントダウンを中断するときはCtrl+5を押します

カウントダウンを中断するとカウントダウンを実行する前のカードに戻ります。

●PC「画面表示の反転」機能

◆表示モード時、ショートカット「Ctrl+R」で一時的に本体モニターの表示を反転します。

◆表示モード時「Ctrl+Shift+R」は外部モニターの表示を反転します。

※本体モニターの反転機能は出力モニター設定で「本体モニターを直接ハーフミラーに写す」を選択した時、または、「その他の設定」で本体モニターを反転している時に限ります。

■ ハーフミラーを使用する場合

● マルチモニターの設定（シングルモニターではこの機能は使用出来ません）

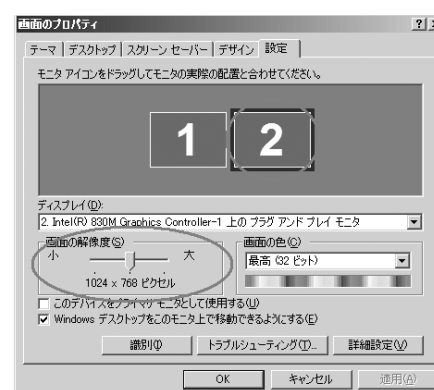
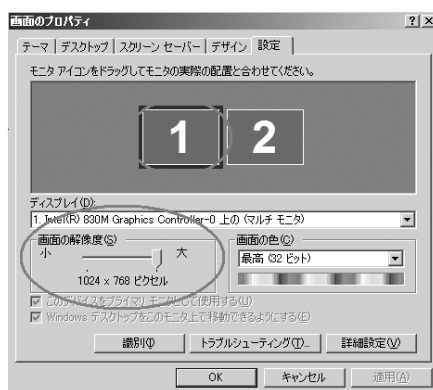
マルチモニター機能とは、Windowsのマルチモニターサポート機能により、外部PCモニターにプロンプトを表示できる機能です。この機能を使うと、本体モニター・外部PCモニター毎に上下反転表示を設定することができます。この機能を使用するには、「Windowsのマルチモニターサポート機能」に対応しているシステムが必要です。Prompter3.1でこの機能を使用する場合は、起動する前に以下の手順でシステムを設定しておく必要があります。

● Windows2000またはXPをご使用の場合

1. コントロールパネルを開き、「画面」アイコンをダブルクリックします。
2. 「設定」タブをクリックします。



3. それぞれのモニターの「画面の解像度」を同じ解像度に設定します。
4. 「OK」をクリックします。



モニターを示すアイコンがひとつしか表示されていない場合、そのシステムでは、マルチモニター機能を使用することはできません。お使いのWindowsによっては、表示内容が異なる場合があります。

● マルチモニターの設定後、以下のご確認もお願いします。

1. 画面の「識別」ボタンを押すとそれぞれのモニターに識別番号、1と2が表示される。
2. 外部モニターに本体モニターのカーソルがスムーズに移動できる。

●Windows Vistaをご使用の場合

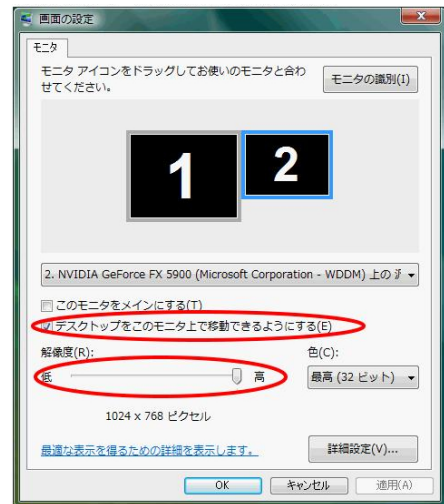
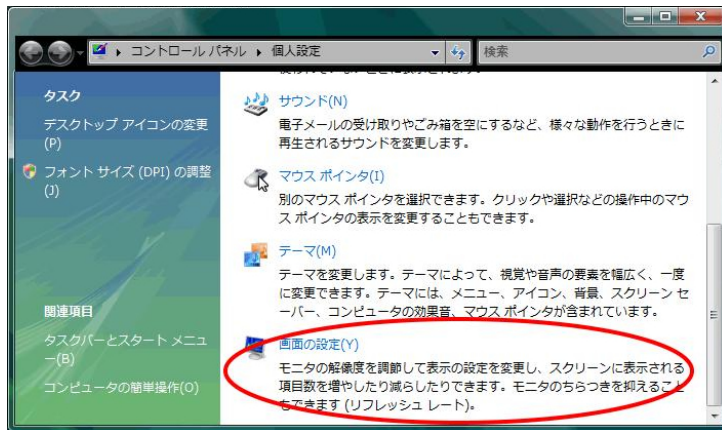
1. デスクトップを右クリックし、メニューから個人設定を選択します。



2. 「画面の設定」をクリックします。

3. それぞれのモニターの「画面の解像度」に設定します。

4. 「OK」をクリックします。



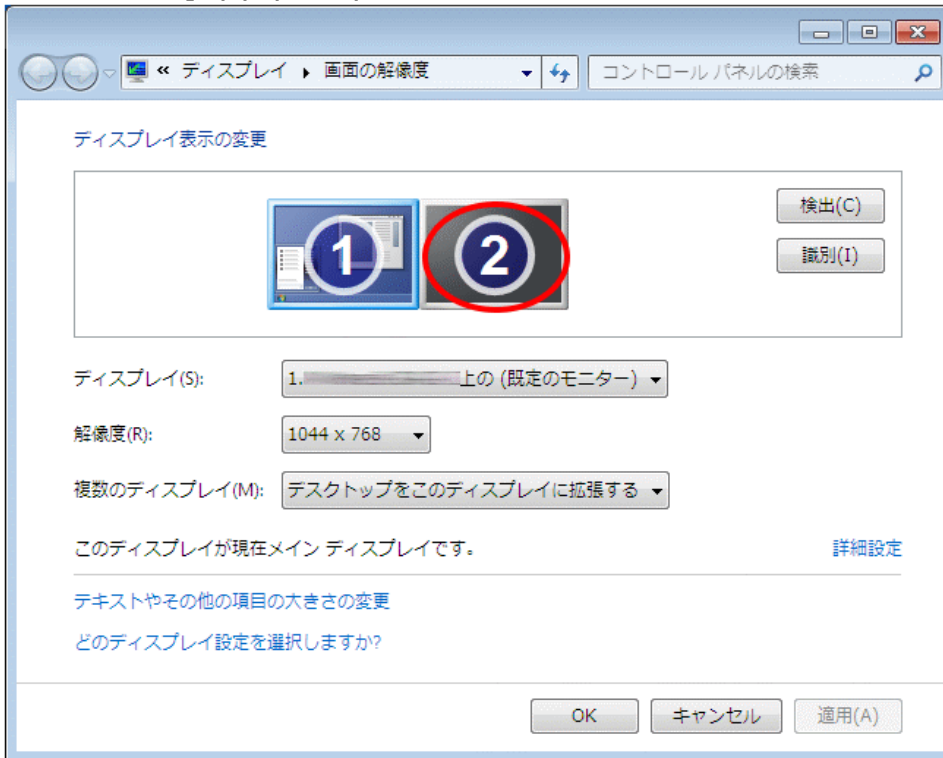
「デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする(E)」のチェックボックスがチェックされていない場合はクリックしてチェック状態にしてください。

●Windows 7をご使用の場合

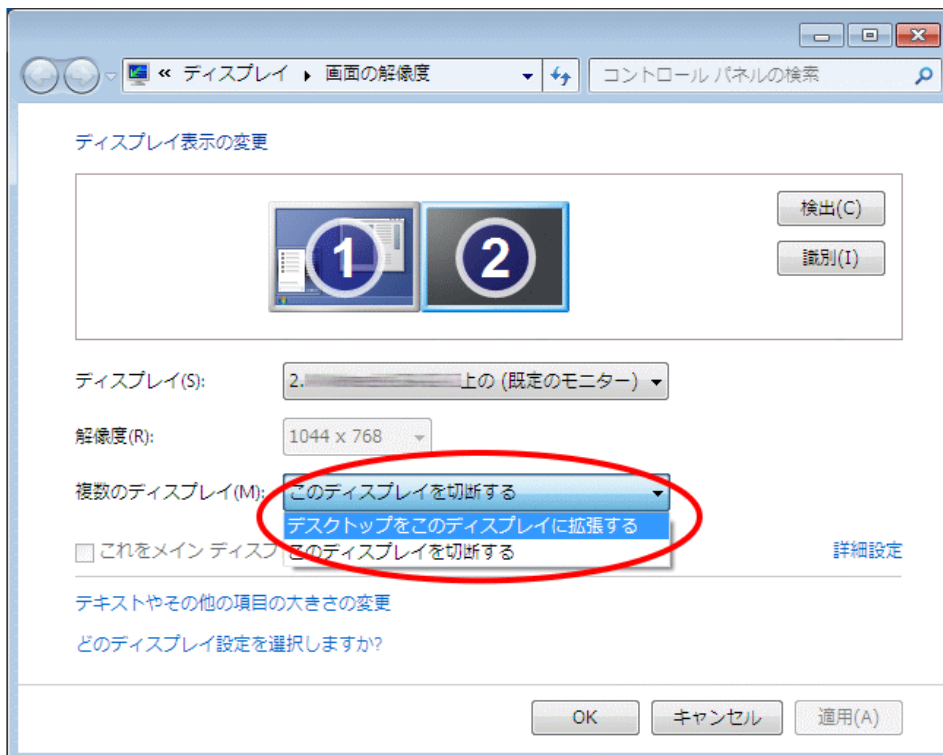
1. デスクトップを右クリックし、メニューから「画面の解像度」を選択します。



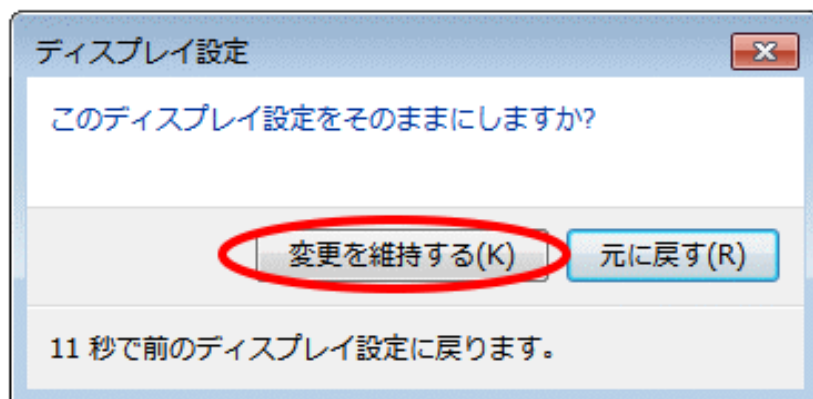
2. 「モニターアイコン2」をクリックします。



3. 「複数のディスプレイ」を「デスクトップをこのディスプレイに拡張する」にして、「適用」をクリックします。



4. 外部モニターの表示を確認し、「変更を維持する」をクリックします。



5. 「OK」をクリックします。

モニターアイコン2が表示されていない場合は、外部モニターの接続を確認してから、「検出」ボタンをクリックしてください。

アドバイス

各OSに対応した「マルチモニターの設定」方法は、Prompter Pro3.1のヘルプ画面からも確認する事が出来ます。

Prompter Pro3.1のヘルプ→その他→マルチモニター機能の設定→のPCに準じたOS（XPやVistaなど）を選びクリックする。

< 注意 ! > マルチモニターの設定確認

設定は問題なくできるが外部モニターに表示されない場合は、次の点をご確認ください。マルチモニター機能搭載のPCにおいても、現在の設定がクローンモードの場合マルチモニター機能が使用出来ません。その場合は、外部モニタを繋いだ状態でデスクトップ上の何も無い場所で右クリックを押し、グラフィックオプションの出力先設定をクローンモード（Clone）から「拡張デスクトップ」に設定し直す必要があります。

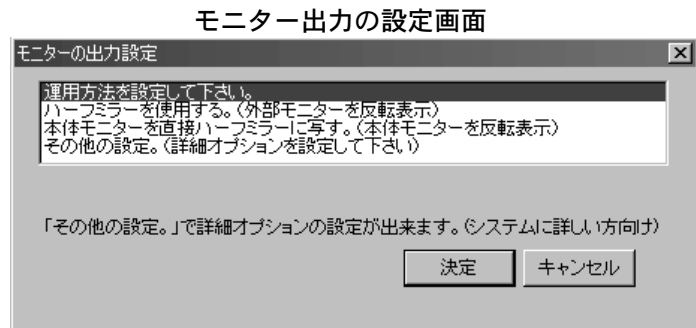
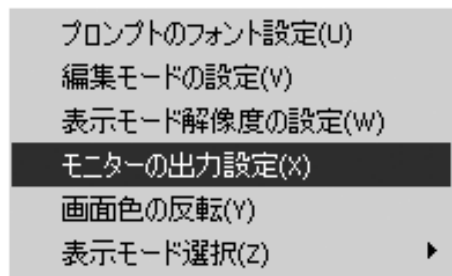
●マルチモニターの設定後、以下のご確認もお願いします。

- 1、画面の「モニタの識別」ボタンを押すとそれぞれのモニターに識別番号、1と2が表示される。
同じ識別番号では、ご利用になれません。
(デスクトップ上でマウスを右クリックさせ、グラフィックオプションの出力先設定がクローンモードになっていないか調べて下さい、拡張デスクトップに設定する)
- 2、外部モニターに本体モニターのカーソルがスムーズに移動できる。

マルチモニター関連の各設定事項をご確認され、なおかつ問題が発生する場合は、お手数ですが、各PCメーカーのサポートをお受け下さい。詳しくは「Windowsのヘルプ」をごらんください。

●モニター出力の設定

◆ファイルメニューからオプション→モニター出力設定を選びます。



※運用形式を選べば自動的に適切な設定が行われます。

運用形式を直接クリックして選択します。

変更を反映したい場合は、「決定」をクリックしてください。

変更しない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

通常は、ハーフミラーを使用する（外部モニターを反転表示）を選択します。

用意されている運用形式に当てはまらない場合は、「その他の設定」を選択すれば、自由に設定を変更することができます。(システムに詳しい方向け)

●モニター出力の設定（詳細オプション）

外部PCモニターへの出力と本体モニター・外部PCモニターの上下反転を設定することができます。

変更を反映したい場合は、「決定」をクリックしてください。

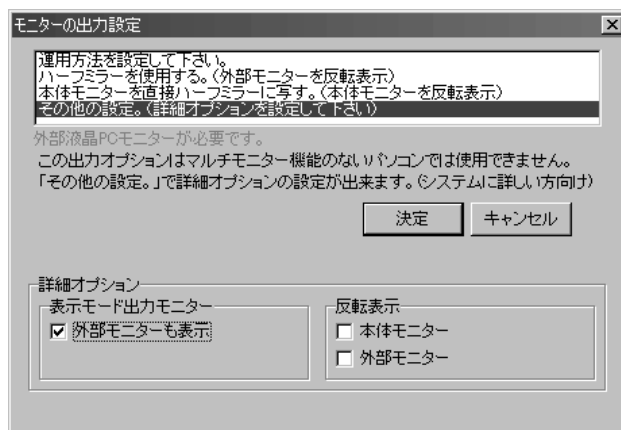
変更しない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。



<ご注意！>

この機能はお使いのパソコンに、「マルチモニター機能」が必要です。

ご使用前に必ずマルチモニター機能が利用できるか確認、設定をして下さい。



<ご注意！>

この設定はPrompter Pro3.1を起動するたびに設定する必要があります。

実際の運用の前に設定が正しいかリハーサルを行うことをお勧めします。

■ スクロール表示での操作 (Vre3.0 ~)

スクロール表示モードは、パソコンの性能により大きく左右されますので、ご利用の際は、高いスペックのパソコンのご使用をお勧め致します。

● スクロール表示機能使用の動作環境



スクロール機能では、CPUのパワーはもとよりメモリー量とアクセス速度、グラフィック機能のスペックによって表示状態が左右されます。パソコンの搭載メモリーが少ない場合、スクロール表示ができない場合があります。また、高い解像度に変更するとメモリーが不足する場合があります。このような場合は「メモリーが足りません」の警告メッセージが表示されます。

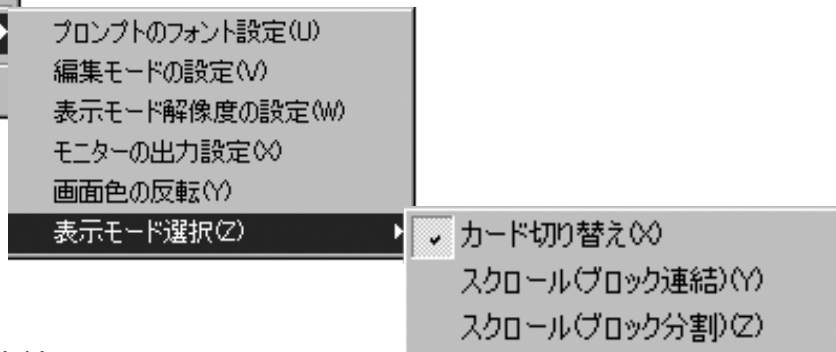
● 表示モードの選択



カード切り替え表示モードとスクロール表示モードはファイルメニュー→オプション→表示モード選択で変更できます。

現在設定されているモードにチェックマークがついています。起動直後は表示モードはカード切り替え表示モードとなります。スクロール(ブロック連結)はブロックをつなげてスクロールさせる表示形式です。スクロール(ブロック分割)はブロック毎にスクロールが停止します。この設定はPrompter Pro3.1を起動するたびに設定する必要があります。

→この設定は外部モニターにも適用されます。



● スクロール(ブロック連結)

縦書き・横書きが同じブロックが連結されてスクロールします。

縦書き・横書き同士が連続していない場合は、スクロール(ブロック分割)と同じようにスクロールは一時停止します。次のブロックを表示する場合は、ブロック切り替えの操作を行ってください。

表示モードのキー操作(ブロック送り・ブロック戻し)

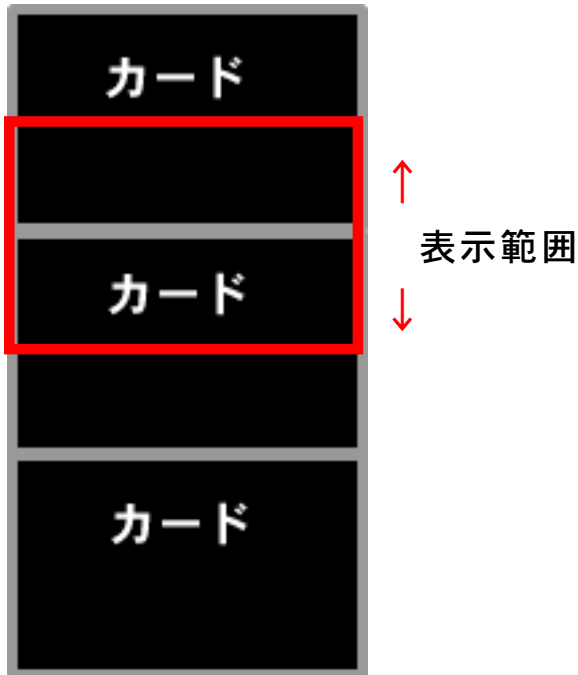
● スクロール(ブロック分割)

スクロール範囲がブロック毎に分割されます。

ブロックの先頭・末端でスクロールは一時停止します。

●スクロール表示モード

◆横書きブロックの場合




●スクロールスピードの調整

スクロールスピードを9段階で直接設定できます。

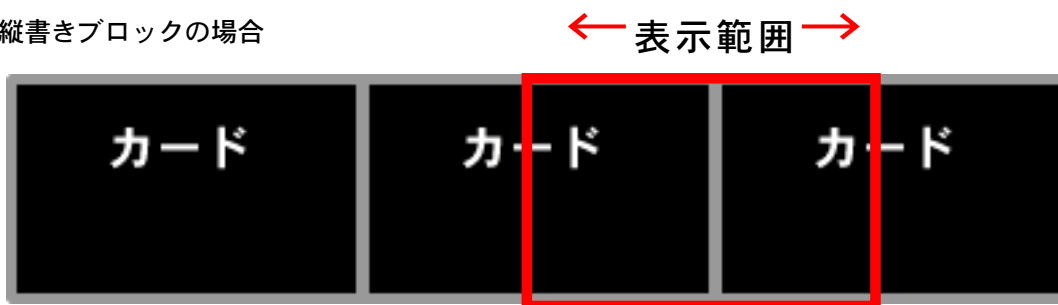
- Shift+1 高速
- Shift+2
- Shift+3
- Shift+4
- Shift+5 標準スピード
- Shift+6
- Shift+7
- Shift+8
- Shift+9 低速

●スクロールスピードの微調整

- Ctrl+ ↑ スクロール速度微調整(加速)
- Ctrl+ ↓ スクロール速度微調整(減速)

 **アドバイス** 段階的に速度を調整する場合はダイレクトスクロールスピードが便利です。

◆縦書きブロックの場合



●スクロール表示モード時のみ有効機能

↑スクロール方向(順方向)

↓スクロール方向(逆方向)

Ctrl+→・Ctrl+←キーでスクロール表示時にブロック単位で頭だしが可能。

スペース スクローラー一時停止・一時停止解除(ダイレクトエディットパネル非表示時のみ)

HOME/ESC スクロール停止



< 注意 ! >

スクロール表示モードでは行反転表示機能及びフラッシュ機能は使用できません。

■ Windows Vistaにて使用時のご注意！

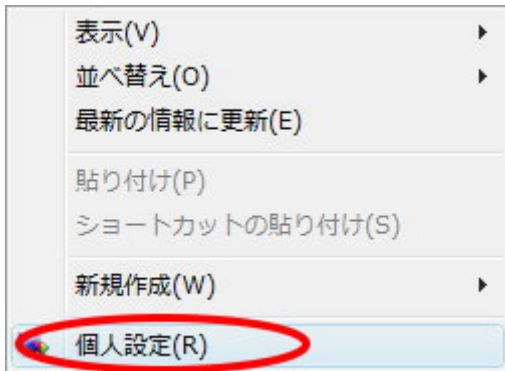


<アドバイス！>

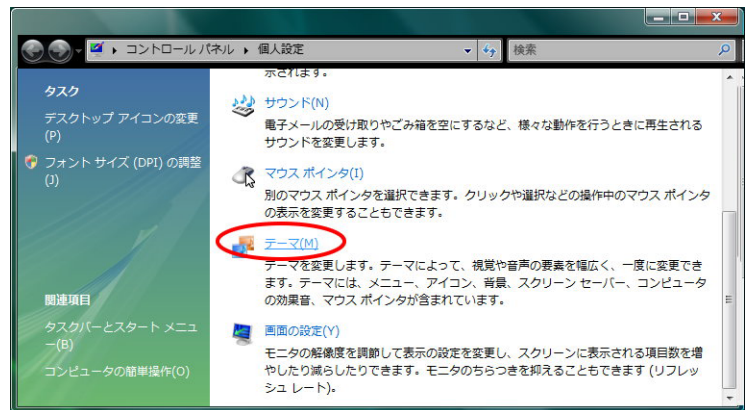
Windows Vista搭載システムにてスクロール機能使用時、処理能力によってはスクロールが滑らかに動かない場合があります。Windows Vistaから搭載されたグラフィック拡張機能(エアロ)を無効にすることでスクロールが滑らかになります。

以下の手順で「グラフィック拡張機能(エアロ)」を無効にして確認してください。

1,デスクトップ上で右クリックを押し、メニューから「個人設定」を開く。

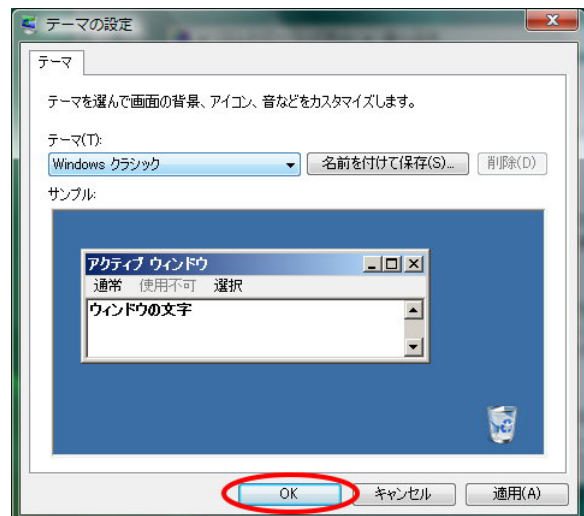
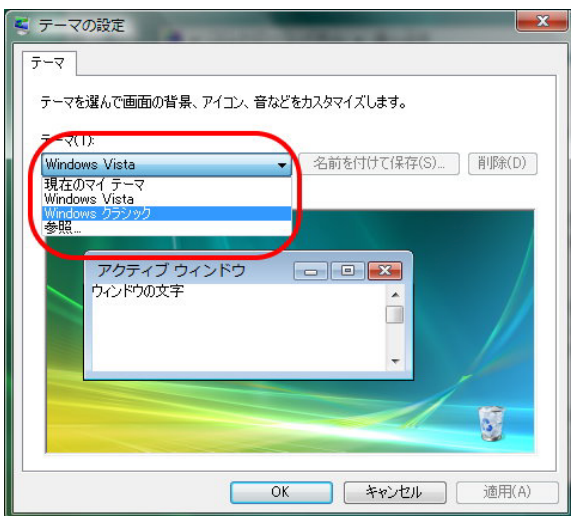


2,「テーマ」をクリックする



3,「テーマ」の一覧から、「Windowsクラシック」を選択する。

4,「OK」ボタンを押し確定する。



■ 解像度と外部モニターについて



<重要！> 解像度の設定について

現在、液晶モニターは表示領域のワイド化の傾向にあります。本体PCモニターと外部液晶ディスプレイを使用する場合には、アスペクト比による問題が生じる場合があります。

アスペクト比の基本的な考えとしては、縦、横の比率を640×480（1.333）という数値を基本的な考えにしております。

プロンプターの原稿制作時に注意しなければならないのは、外部モニターに適切な表示を行うには、ご使用になる外部モニターの解像度を事前知っておく必要があります。

【設定方法】

ファイルメニュー→オプション→表示モード解像度の設定

表示モード解像度の変更ウインドウに解像度の候補が表示されております。

候補の数値の頭の部分に、何もついていないものはアスペクト比が基本的なもので使用可能。

「+」がついているものは表示範囲が横にはみ出してしまうもの。

「*」がついているものはアスペクト比は異なるが、使用可能なもの。

解像度を選択すると、画面に実際の表示範囲が表示されます。

その際、接続した外部ディスプレイに

四隅の青色の三角部分がディスプレイ内に表示されていれば問題ありません。

四隅の青色の三角部分が切れていれば、文字の表示が正常に表示されない可能性があります。

●通常15インチのディスプレイの解像度は、1024×768 XGA

●通常17インチのディスプレイの解像度は、1280×1024 SXGA



<アドバイス！> 外部モニター用液晶ディスプレイの選び方

スクロール機能をご利用になる場合、

液晶ディスプレイをお求めの際は下記の点をご確認の上、ご用意下さい。

■ 応答速度（反応速度）：8ms以下をお選び下さい。

応答速度とは、画面の色が「黒→白→黒」と変化する際に要する時間であり、単位はms（ミリ秒）が使われます。例えば応答速度が「16ms」の液晶モニターは、画面の色が「黒→白→黒」と変化する際に16msの時間がかかるといえます。

応答速度が高い液晶モニターは、画面の切替わりが速い動画やゲームに適しています。

スクロール表示時、反応速度が遅い液晶ディスプレイでは、イメージの残像の残る時間が長くなり、表示が、「ぶれ」に見える、チラツキがあるなど、見にくくなる場合があります。

また、コントラスト比の値は、基本的には高めれば高いほど、よりはっきりとしたメリハリのついた鮮明な画像になります。

(重要事項)

● Prompter Pro Ver3.1 使用についてのご注意！

Prompter ProVer3.1の使用に対して以下のライセンス契約事項をお守り下さい。
(ソフトウェアを使用する事においてライセンス契約は締結されます)

株式会社ページワンは、本ライセンス条件に反しない限り、お客様の所有するコンピュータで以下の制限事項を伴った本ソフトウェアの非独占的な使用权をお客様にライセンスいたします。

- 1) Prompter Pro3.1ソフトウェア、セキュリティーユニット(USBキー)、およびマニュアル(以下、それら全てを総称して製品と呼ぶ)は、株式会社ページワンの著作物として登録されています。
- 2) お客様は所有されているセキュリティーユニット接続されているコンピュータでのみ製品を使用することができます。
- 3) お客様は株式会社ページワンの書面による事前の同意なしでは、製品の一部または全部をソフトウェアの通常使用の目的以外には複製することはできません。複製には他言語への翻訳、異なる媒体への転送、書式変更、解析行為が含まれます。
- 4) セキュリティーユニット(USBキー)の取り扱い、保管には十分注意してください。紛失しても再発行することは出来ません。また、以下の場合は有償修理となります。
 - ・セキュリティーユニット(USBキー)に貼付されている管理番号及び型番の記載されたラベルが剥がされているものやケース及びコネクタの物理破損等。
 - ・ご使用上の誤り、または不要な修理や改造、誤接続による故障及び損傷、意図的な破壊によるもの、ケースを開けた痕跡があるもの。
 - ・火災・地震・風水害・落雷およびその他天災地変、あるいは異常電圧など外部要因に起因する故障および損傷。
 - ・お買い上げ後の輸送や移動および落下など、不当な取り扱いにより生じた故障及び損傷。
- 5) 本ライセンスは廃棄されるまで有効とします。

お客様がライセンス条件に不誠実な行為を行った時点でライセンスは予告無く廃棄されます。

また、お客様が製品を破壊(製品がインストールされているコンピュータからアンインストールを行い、インストールメディアおよびセキュリティーキーを機械的読み込みの不可能な状態にする)することでライセンスを廃棄することができます。
- 6) 製品には商業的機密が含まれており、ご利用に際して機密を故意に漏洩することは許されません。
- 7) 株式会社ページワンは製品の用途を問わず使用、特性に関して一切の情報提供、明示または黙示の品質、性能の保証を行いません。製品は、あるがままの仕様、能力で販売されたものであり、理由の如何を問わず、また、その内容に係わらず製品を使用した結果に対して株式会社ページワンは一切の責を負いません。

また、製品を使用して発生した損害および、結果から派生する費用に関して一切の責を負いません。
- 8) 製品から、この使用条件及び著作権表示の一部又はすべてを削除してはなりません。

著作権

Copyright 1995-2010 PAGE ONE Co.,Ltd All right reserved.

このプログラムおよび、ドキュメントは、著作権法および国際協定により保護されています。

● サポート

株式会社 ページワン

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 1-52-18 ルアンビル2 F

TEL03-3373-6515 FAX03-3373-6516

サポート時間：日曜、祭日を除く月曜日から金曜日までの午前11時～午後6時まで

サポート専用番号：03-3373-6517